

● お申込み方法

WEBにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2013』のご案内ページをご参照ください。

<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2013/main.html>

● 参加申込み期限

11月5日(火)〔早期割引申込み期限 10月15日(火)〕

※お申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めのお申込みをお薦めいたします。

● お支払い方法

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付データをお送りいたします。

早期割引適用の方は10月22日(火)までに、それ以外の方は11月11日(月)までに下記の口座にお振込みください。
また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付データ)に記載されているお申込み番号を必ずご記入ください。

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。

※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込みをお願いいたします。

※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。

※参加票は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りいたします。

※お申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通 0737079
名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
トクヒニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局

E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

● 参加費 注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。

会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加票をお送りいたします。

(消費税込)

	11月21日(木)		11月22日(金)			
	シンポジウム		セミナー・ワークショップ			
	10/15まで 早期割引	10/16以降は 通常申込	10/15まで早期割引		10/16以降は通常申込	
			1セッション (2.5時間)	午前と午後の2セッション (5時間)	1セッション (2.5時間)	午前と午後の2セッション (5時間)
PMAJ個人正会員	6,300円	8,400円	7,350円	14,700円	9,450円	18,900円
PMAJ法人正会員の社員または職員 ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	9,975円	11,550円	10,920円	21,840円	12,600円	25,200円
一般参加者	14,700円	15,750円	15,750円	31,500円	16,800円	33,600円
学 生	1,050円		8,400円	16,800円	11,550円	23,100円

※懇親会は無料です。



PMAJ(NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMシンポジウム、PMAJ会員のための例会(定例の勉強)、PM研修、国際交流機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。このPMシンポジウムも会員活動の一環として、企画から運営まで会員のサポートで実施しています。



PMシンポジウム 2013

11/21_木 22_金

タワーホール船堀
江戸川区総合区民ホール

新たな価値創造、
そして成長

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(予定)

一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA)

PMシンポジウム2013 開催のご案内

今年のシンポジウムのテーマは、「新たな価値創造、そして成長」です。

“新たな価値創造”を目指し、市場や社会の隠れたニーズを発見し、それを現実のものとして具現化することによって我が国の競争力を復活させ、“成長”に結びつけよう、そのためには“創造”すること即ちイノベーションをどうおこすかを皆で考えてみませんか。

いま私たちに求められている大切なことは、グローバルの中における潮流を見抜き、先入観を打破すること、想像力を働かせること、多様なものの見方をすること、洞察すること、市場や社会と新しい価値を共創すること、ではないでしょうか。

本シンポジウムでは、この認識の下、価値創造について各分野で活躍されている方々に、講演並びにセミナー／ワークショップをお願いし、学びと気づきの場を設けました。

基調講演は、イノベーションに関して一橋大学の米倉誠一郎教授、また多様性特に女性の能力の活かし方に関して株式会社イー・ウーマンの代表取締役佐々木かをり社長の第一人者お二人にお願いしております。

参加される皆様にとって有意義な二日間になれば幸いです。

新たな価値創造、 そして成長

各種ポイントの認定対象となる――

PMシンポジウム 2013

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 5ポイント
(2セッション・5時間) : 10ポイント

■PDU

発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目: 5.25PDU
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 2.5PDU
(2セッション・5時間) : 5PDU

※注意 PMI®へのPDU及びPMP®資格認定試験受験用受講証明の申請は必ず一括で行ってください。
(1日目・2日目を分割するとエラーになります)

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛により、1日目は6時間30分、2日目は、1セッションは2時間30分、2セッションは5時間の「知識ポイント」が付与されます。(4時間当たり1ポイント相当(上限なし))

PMシンポジウム2013 基調講演

1日目(11月21日) 午前

基調講演 1
10:00~

創発的破壊：パラダイムチェンジとイノベーション

一橋大学 イノベーション研究センター 教授 米倉 誠一郎

アベノミクスでやや日差しが戻ったとは言うものの、日本の現状は決して明るいとはいえない。なぜなら、日本企業のイノベーションによる生産性の低さが、根本的問題となっているからだ。

しかし、幅広いイノベーションの概念を理解し、大胆な視点転換(パラダイムチェンジ)を行えば、日本のもつグリーンイノベーションの可能性はかなり大きいと確信している。しかも、日本が主導するグリーンイノベーションは、成長著しいアジア・アフリカをはじめとするBOP市場が最も深刻に求めているものである。さらに、少子高齢化が進む先進国や中国にとっても、日本の環境技術やロボット技術には大きな期待と希望が潜んでいる。

本講演では、こうした未来に向けて、イノベーションのあり方や企業戦略の方向性、そして個々人が日々のイノベーションを継続していくことの重要性を考える。



【講演者略歴】米倉誠一郎(よねくら・せいいちろう) 1953年東京生まれ。一橋大学社会学部、経済学部卒業。同大学大学院社会学研究科修士課程修了。ハーバード大学歴史学博士号取得(Ph.D.)。95年一橋大学商学部産業経営研究所教授、97年より同大学イノベーション研究センター教授。現在、フレドリア大学GIBS日本研究センター所長、季刊誌「一橋ビジネスレビュー」編集委員長を兼務。アカデミーヒルズ「日本元氣塾」塾長として社会人教育にも尽力。イノベーションを核とした企業の経営戦略と発展プロセス、組織の史的研究を専門とし、多くの経営者から熱い支持を受けている。著書は、『創発的破壊 未来をつくるイノベーション』、『脱カリスマ時代のリーダー論』、『経営革命の構造』等多数。

基調講演 2
11:05~

ダイバーシティが経済成長のキーワード

株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長 佐々木 かをり

現在の日本が抱えている課題を解決するには、ダイバーシティ(多様性)の視点が重要である。どのように発想の転換をし、グローバル社会でどのように成長していくことができるのか。現在の仕事の進め方、物事の見方や視点が単一的で、議論をしていく習慣がないことも気づくかもしれない。情報提供の講義というより聴き手が考える機会を与える講演。

20代で起業と同時に、テレビ朝日ニュースステーションのレポーターとして活躍。30カ国以上を取材し、1989年日本で初めて女性の異業種によるビジネスネットワークを立ち上げ、1996年には、日本初女性向けポータルサイトを開設、同年、働く女性が参加する国際女性ビジネス会議を開催。現在は日本最大級、800~1,000人の働く女性が集まるビジネス会議となっている。2000年にバナー広告を一切掲載しない新しいビジネスモデルでイー・ウーマンを立ち上げる。その経験からみたグローバル社会と日本の違い。近未来への成長のキーワードとなるダイバーシティについて、イー・ウーマンでの事例を含めて語る。



【講演者略歴】佐々木かをり(ささきかをり) 株式会社ユニカルインターナショナル代表取締役社長、株式会社イー・ウーマン代表取締役社長
その他の現職: 国際女性ビジネス会議実行委員長、米国エルミララ大学名誉博士号、東京大学非常勤講師、内閣府規制改革会議委員、文科科学省中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員、法務省法制審議会委員、総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、国立科学博物館経営委員、日本科学未来館総合監修委員、一般財団法人インターネット協会評議員、KDDI財団理事、日本電気株式会社社外取締役、株式会社ニッセンホールディングス社外取締役、東京海上日動火災保険株式会社社外監査役、他

11月21日（木） “展示コーナー” “参加者交流の場” “ドリンクサービス”

午 前		午 後								タ 方	
5F 大ホール・小ホール		IT トラック		P2M トラック	エンジ・建設・公共 トラック	製造 トラック	金融・流通・サービス トラック	PM人材育成 トラック	価値創造トラック	2F 瑞 雲	
09:15	開場、受付開始	13:10 ┌ 14:00	【IT-1】ツールを利用したWBSの再利用性向上 マルチディメンジョンキューブによるWBS作成実演 森川 勇治（ウェブアイ） 	【PA-1】ドロッカーに学ぶイノベーションのマネジメント イノベーションの方法は学ぶことができる 緒方 慎八（O'Gatha Management Institute）	【EG-1】オーケストラを地域の宝に サンフランシスコ交響楽団における公共イノベーション 林 宏典（デル） 	【MS-1】国際有人宇宙プロジェクトの技術の伝承 国際宇宙ステーション「きぼう」での取り組み 長谷川 義幸、伊藤 剛（宇宙航空研究開発機構） 	【FI-1】小売業におけるライフログ活用 人と“コト”“モノ”との出会いを解き明かす 大久保 龍一（富士通）	【PS-1】模擬プロジェクトによるPM教育 産業技術大学院におけるPBL方式のPM教育事例 酒森 潔（産業技術大学院） 石井 浩靖（日本オラルクル） 	【VC-1】顧客価値創造の開発手法 エンタープライズアジャイル 竹腰 重徳（アイネット） 	18:00 ┌ 19:30	懇親会 講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供いたします。（無料です）
09:45 ┌ 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」		【IT-2】成功例に学ぶ、組織のPM強化の具体策 プロジェクトを成功させる仕組みと体制、運用とは 梅田 弘之（システムインテグレータ）	【PA-2】ニュービジネス立ち上げ 関係者との合意形成 千葉 訓道（元気アップつちゆ）	【EG-2】超マルチベンダー（マルチプロジェクト）のマネジメント 病院情報システムおよび社会保障系大規模公共システム開発を例として 井形 繁雄（Annexe R&D）	【MS-2】統制型マネジメントの終焉 もう一度ジャパニイズNO.1を取り戻すために 齋藤 ウィリアム 浩幸（インテカー）	【FI-2】オムニチャネル時代のセブン&アイネット戦略 飯田 克也（セブンネットショッピング）	【PS-2】オフショア開発マネジメント成功のカギ ブリッジ・エンジニアから見た効果的なオフショア開発マネジメント SUKUMAN THING TAMANG（SoftDEL Systems Private Limited）	【VC-2】日立での震災復興への取り組み事例 地域の再生、産業の新たな創出に向けて 庄司 貞雄（日立ソリューションズ東日本）		
10:00 ┌ 10:50	基調講演 1 創発的破壊： パラダイムチェンジとイノベーション 一橋大学 イノベーション研究センター 教授 米倉 誠一郎	15:35 ┌ 16:25	【IT-3】ITサービスが支える企業の海外進出 アジアを結ぶマルチプラットフォームサービス 大橋 英昭（TIS）	【PA-3】規格の無い仕事のマネジメント テレビ番組「クールジャパン」ができるまで 中川 幸美（クリエイティブ・ネクスス）	【EG-3】ERPでプロジェクトを可視化する ERPとPMSで実現する経営の見える化 増川 順一（千代田化工建設）	【MS-3】行動観察とは？ 「事実」基点の潜在ニーズ・リスク・スキルの抽出法 磯 龍介（エルネット）	【FI-3】流通BMSが流通企業を強くする 消費財流通業界の新たな業務改革の潮流 坂本 尚登（流通システム開発センター）	【PS-3】PM教育における「新7つの誤解」 教育の投資効果を阻む陥りやすい錯覚 長尾 清一（ピーエム・コンセプト）	【VC-3】『学び』をデザインする 「ことばスタンプ」開発で目指した価値 大久保 理（ジイケイテック）		
11:05 ┌ 11:55	基調講演 2 ダイバーシティが 経済成長のキーワード 株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長 佐々木 かをり	16:40 ┌ 17:30	【IT-4】アジャイル開発とスクラム 顧客・技術・経営をつなぐ協同的ソフトウェア開発マネジメント 平鍋 健児（チェンジビジョン）	【PA-4】プロジェクトの真のグローバル化のために 企業力強化のためのプロジェクトデザイン Bryan R. Moser（Global Project Design LLC） 	【EG-4】ecoBCPによるスマートシティ創造 新たな価値創造と成長に向けて 那須原 和良（清水建設）			【PS-4】ワンランク上のPMをめざして 制約にとらわれず幅広く活躍できるPM人材 向後 忠明（日本セルロース）	【VC-4】農業イノベーション無くして日本の未来はない！ 農業と他産業との連携が創る社会的価値は大きい 加藤 百合子（エムスクエア・ラボ）		

※小ホールは、映像による中継となります。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

11月22日（金） セミナー・ワークショップ全22プログラム開催
～PM基礎／実践・PM人材教育・業種ごとのセミナー・ワークショップ～

午前（10:00～12:30）		午後（13:45～16:15）	
A-1	「総論賛成各論反対」を制すP2Mの技 成長を続けるためのシナリオ作り 渡部 寿春（イーストタスク）、内田 淳二（king）、藤澤 正則（デリア食品） 	B-1	PMBOK®ガイド 第5版概要解説 PMBOK®ガイド 第5版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説 笠原 直樹（日本電信電話）
A-2	圧倒的成果と良好な人間関係のつくり方 ストレス軽減！主体的に人を動かすマネジメント 後藤 清安（インスパイア型リーダー育成トレーナー） 	B-2	プロジェクトマネジャーのための「交流分析」入門 ステークホルダーとのよりよい関係を築くためのセルフコントロール法 丸山 奈緒子（アイシンク）
A-3	勝てる組織の作り方ISOからAgileまで PMのISO化元年今考えようPMのコンピテンス！ 田島 彰二（日本電気）	B-3	今こそ、プロジェクト思考で組織変革を 「P思考」欠如が価値連鎖を断ち切る、徹底検証を！ 新藤 一豊（EPMイノベーション）、浜本 知一（富士テクノソリューション）
A-4	海外インフラPJに必要なリスク管理 新興国での事業リスクを最小化するプロセスと手法 木埜山 浩、大野 紳吾（マーシュブローカー・ジャパン） 	B-4	「集めるマーケティング」から「集まるマーケティング」へ 「集まる顧客」が本当の「お客様」 宮田 貞夫（ハンブティ）
A-5	仕事を通じて若手を育てる実践的テクニック プロジェクトマネジャーとして現場でいかに若手を育てるか 田中 淳子（グローバル・ナレッジ ネットワーク） 	B-5	信頼に基づくリーダーシップ どんなに正しいことを言っても人は動かない 小倉 広（小倉広事務所）
A-6	アラ還プログラム 実行中 パーソナルプロジェクトから学んだこと 中 憲治（プラネット）	B-6	チームビルディングの罠：ポピュリズム 現場のコンフリクトはなぜ起り、どう解決するか 松尾谷 徹（PS-WG）、松田 浩一（富士通）、森本 千佳子（東京工業大学）

午前（10:00～12:30）		午後（13:45～16:15）	
A-7	システム開発とコミュニケーション 伝わるコミュニケーションの方法 板倉 稔（イマテック） 	B-7	経済成長の行方を握る女性活用とは 成長戦略に影響を与える女性活用事例を探る 小野田 祐子（TIS）、久永 美砂（日立ソリューションズ）、吉本 桂子（ロイヤルブルーティージャパン）、石川 博子（エイチアイシス）
A-8	ICTで活かすなぜなぜ5回（階） 実践的質問とアジャイル開発のTPSとの考察 小原 由紀夫（富士通アドバンストエンジニアリング） 	B-8	計画力で時代に勝つ 「実行」に効く計画の技術 浦 正樹（エム・アイ・アール）
A-9	マネジメントのためのフューチャーセッション 未来思考の対話による共創型の組織へ 寛 大日朗（フューチャーセッションズ） 	B-9	ITプロジェクト成功のための構想企画 しっかりしたビジョンと構想企画が命運を分ける 能登原 伸二（アイ・ティ・イノベーション）
A-10	企業を変える独創的発想法 イノベーションの起こし方 中谷 英雄（ピーエム・アライメント） 	B-10	デザイン思考によるイノベーション実践 21世紀型のマネジメント手法を体系的に学ぶ 柏野 尊徳（デザイン思考研究所）
A-11	小さなチームで大きな成果を出す働き方 社員もお客様も幸せになる思考と行動のヒント 倉貫 義人（ソニックガーデン）	B-11	変化に対応するアジャイル・プロジェクトマネジメント 従来手法との違い、成功するリーダーシップ像を探る 平鍋 健児（チェンジビジョン）、神部 知明（富士通ソフトウェア・ロジクス）、梨山 洋徳（エヌティティ・エス）、佐藤 義男（ピーエム・アライメント）

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。

IT-1 ツールを利用したWBSの再利用性向上
13:10 マルチディメンションキューブによるWBS作成実演

株式会社ウェブアイ
代表取締役社長 森川 勇治 

【セッション概要】
WBS多次元マトリクスに時間軸(時系列)を加えた抽象空間のことをマルチディメンションキューブと呼ぶ。プロジェクトを定義する重要なデータモデルであるWBSの標準化は、PM関係者の最重要テーマ。しかし、標準的WBSがエンドユーザーに利用されず、標準化からのメリットが享受できない組織が多い。成果物、プロセス、組織階層構造からなる多次元マトリクス上にタスクを配置することにより得られた「プロジェクトモデルの再利用性向上」をデモンストレーションと事例を織り交ぜて発表する。

【講演者略歴】1984年早稲田大学理工学部卒。2000年株式会社ウェブアイ設立。今日まで30年間にわたり、600社以上の企業でプロジェクトマネジメントシステム構築コンサルティングに携わり、日本のPM界に貢献。プロジェクト管理セミナーの講師としても活躍。

IT-2 成功例に学ぶ、組織のPM強化の具体策
14:15 プロジェクトを成功させる仕組みと体制、運用とは

株式会社システムインテグレータ
代表取締役社長 梅田 弘之

【セッション概要】
組織のプロジェクトマネジメントを強化しない限り、失敗プロジェクトはなくなる。日本人は失敗事例が好きだが、本来、成功にこそ学ぶべきものがある。失敗プロジェクトを出さない土台作りには、何をすべきかを概念ではなく具体策で持ち帰って欲しい。プロジェクトマネジメントを行う仕組み、プロジェクトマネジャーの育成、メンバーや部門長の意識改革、PMOの役割と活動内容、各人の日々の運用と役割、PM強化によりどんな劇的変化が起こるか、などを成功事例をもとに示す。

【講演者略歴】1995年システムインテグレータ社設立。EC「Web Shopping」、開発支援「Object Browser」、ERP「GRANDIT」、PM「OBPM」などのパッケージを開発。主な著書に「実践プロジェクト管理」や「統合型プロジェクト管理のススメ」「グラス片手にDB管理シリーズ」など。

IT-3 ITサービスが支える企業の海外進出
15:35 アジアを結ぶマルチプラットフォームサービス

TIS株式会社 IT基盤サービス第1事業部
IT基盤サービス営業第2部 副部長 大橋 英昭

【セッション概要】
日本企業のアジア進出がもはや一拠点に留まらず、国を跨って広域に拡大する今、TISは2012年より日本・ASEAN・中国の3大拠点を結んでITサービスを提供する「アジアマルチプラットフォームサービス」を提供している。海外の特定拠点でのビジネススタート時における事業状況に合わせたITサービスから、複数拠点を結んだ最適なインフラ・ネットワーク環境の構築・提供まで、新たなソリューションを新たな市場に提供し始めた経緯とサービスの特徴について紹介する。

【講演者略歴】2001年セキュリティベンダー入社。2003年TIS入社、IT基盤サービスの企画・営業を担当し、中国におけるセキュリティビジネスを推進。2009年よりクラウドサービス営業責任者、2013年よりIT基盤関連サービスにおける中国・ASEAN地域の営業責任者としてビジネスを推進。

IT-4 アジャイル開発とスクラム
16:40 顧客・技術・経営をつなぐ協調的ソフトウェア開発マネジメント

株式会社チェンジビジョン
代表取締役社長 平鍋 健児

【セッション概要】
アジャイル開発の根底には、80年代日本の製造業で行われていた暗黙知を利用した新製品開発手法がある。野中郁次郎らが1986年に書いた「The New New Product Development Game」に由来する、製品への要求を顧客との共体験を通して学び取り、それを仕様書ではなく体で開発に運ぶ、開発のあり方を紹介する。

【講演者略歴】UMLエディタstah*(旧JUDE)の開発等10年のアジャイル開発経験を持ち、開発現場をより協調的に、創造的に、そしてなにより楽しく変えたいと考えている。著書「アジャイル開発とスクラム～顧客・技術・経営をつなぐ協調的ソフトウェア開発マネジメント」など多数。

PA-1 ドラッカーに学ぶイノベーションのマネジメント
13:10 イノベーションの方法は学ぶことができる

O'Gatha Management Institute
代表 緒方 慎八

【セッション概要】
イノベーションとは「新しい価値を創造し、それを顧客、または社会に提供すること」だとドラッカーは言っている。イノベーションを行わない組織は衰弱して死に至ると言うのである。どのようにしてイノベーションの機会を組織的・体系的に探すか、見つけた機会をどうマネジメントし事業化して成果を刈り取るかについてドラッカーがコンサルタントとしての体験を通して纏め上げた原理・原則を紹介する。現代の事例に基づいてドラッカーの思想が生き生きと蘇る。

【講演者略歴】1971年日立製作所入社。ソフトウェアの設計・開発などIT技術開発、ビジネス開拓に従事。英国、米国等10数年海外でのマネジメントにも従事。2011年に米国クレアモント大学院大学ドラッカー研究所認定ドラッカーカリキュラムインストラクターとなる。

PA-2 ニュービジネス立ち上げ
14:15 関係者との合意形成

株式会社元気アップつちゆ
発電／売電担当 千葉 訓道

【セッション概要】
AEDは2003年厚労省の薬事認可から今年で10年を迎え、国内普及台数は既に40万台を越えた。医療機器分類で<危険度が高い;クラスⅢ>に属し、主な適用は<瞬間死に至る心室細動>である。<AEDの普及>とは、敢えてその適用領域を発生現場まで広げ、一般市民の参画を促し、日本の救命率を引き上げる!といった壮大なプロジェクトを意味する。ニュービジネス立ち上げの<壁と合意形成>事例を、行政／社内／顧客／チャネルから一つずつ紹介する。

【講演者略歴】東北大学工学部電気通信工学科卒。1979年横河ヒューレットパカード株式会社に入社以降、33年間メディカル部門で営業／販売促進／チャネル／国際営業など各部長。2011年被災後、福島市土湯温泉町の再生可能エネルギー発電事業会社<株式会社元気アップつちゆ>で復興再生事業に従事。

PA-3 規格の無い仕事のマネージメント
15:35 テレビ番組「クールジャパン」ができるまで

株式会社クリエイティブ・ネクサス
代表取締役 中川 幸美

【セッション概要】
コンテンツが制作ジャンルになって20年近く。ここにきて政府はクールジャパンやポップカルチャーを前面に打ち出した。私は、そのクールジャパン(日本のカッコいい文化)をテーマにした番組を8年前から制作している。新番組をどのように発想し、どのように制作体制を構築するかを、クールジャパンの8年の歩みを振り返りながら語る。
流れ：新番組の発想の仕方。
制作チームの作り方、問題解決。
番組から派生した事。

【講演者略歴】1981年フジテレビの契約社員。「ザ・ドキュメント」「ザ・貴族」などのD&A。1989年現在のCRネクサス入社。ドキュメンタリーと情報番組のプロデューサーを務める。現在は「クールジャパン」他特番をプロデュース。

PA-4 プロジェクトの真のグローバル化のために
16:40 企業力強化のためのプロジェクトデザイン

Global Project Design LLC
President Bryan R. Moser 

【セッション概要】※講演は日本語で行います。
複数の国のメンバーが参加や、文化の違う企業が共同で参加するプロジェクトなど、昨今の複雑化したプロジェクトをどのようにプランニングするかは多くの企業の悩みの種である。今回、複数の地域、異文化とのコミュニケーション、国や企業をまたがったチーム間の調整、同時進行で実施するタスクや複雑な依存関係など、複雑に絡み合った事象を、ソシオテクノロジー論に基づいてビジュアル化するモデリングツールやプロジェクトの実施予測をするシミュレーション技法を紹介する。

【講演者略歴】MITを卒業後、初めての外国人技術者として日産自動車に入社。複数の会社を経て、1999年にGlobal Project Design社を設立。現CEO。2012年に東京大学院新領域創成科学研究科の博士課程を卒業。複雑系社会システムに関する研究発表を多数行っている。

EG-1 オーケストラを地域の宝に
13:10 サンフランシスコ交響楽団における公共イノベーション

デル株式会社 Japan Commercial Sales Operation
シニアプログラムマネジャー 林 宏典 

【セッション概要】
公共・文化分野では、①有形無形のベネフィット・コストの考慮が必要、②多様なステークホルダーの合意形成・参加意識醸成、③自治体の財政難といった課題があり、プログラムマネジメントの視点が不可欠である。本講演では、音楽監督マイケル・ティルソン・トーマス氏の下、演奏、コミュニティ活動両面で近年急速に評価を高めているサンフランシスコ交響楽団の取り組みを例にとり、公共・文化分野におけるプロジェクト・プログラムマネジメントの価値を説明する。

【講演者略歴】業務改革、R&Dポートフォリオ管理からまちおこしまで様々なコンサルティングプロジェクト経験を有する。2010年より現職にて新規事業立ち上げプログラムを推進。George Washington UniversityにてPM修士号取得、PMS、PMP®

EG-2 超マルチベンダー(マルチプロジェクト)のマネジメント
14:15 病院情報システムおよび社会保障系大規模公共システム開発を例として

Annexe R&D株式会社
代表 井形 繁雄

【セッション概要】
大規模基幹情報システム構築のほとんどは、多様なAPの組み合わせによる超マルチベンダー／マルチプロジェクト状態となるが、個々のプロジェクトは与えられたミッションが全てであり、放置すると、勝手に動きだしカオス状態をもたらす。よって個々のプロジェクトを見張り、マスタープランに整合させる統治を行うPMO(プログラムマネジメントオフィス)が構築の成否を握る。超マルチ状態であった病院情報システムや大規模公共システムを例として、PMO運営の要諦を解説する。

【講演者略歴】1990年よりアクセンチュア株式会社で、多数の大規模システムSIおよびコンサルティングプロジェクトに従事。その後、2011年にAnnexe R&D設立。ICTを根にした新たなビジネスを模索する企業の事業立ち上げ支援や、業種を問わない大規模SIのPM支援など、幅広く活動。

EG-3 ERPでプロジェクトを可視化する
15:35 ERPとPMSで実現する経営の見える化

千代田化工建設株式会社 上席理事
ITマネジメントユニット／GM 増川 順一

【セッション概要】
企業が成長を続けるためには基盤整備が不可欠である。本年度、千代田化工グループは中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」を策定したが、この中の基本戦略にデータマネジメントインフラの整備と活用が挙げられている。この実現のために、プロジェクトデータの管理・活用に重きを置いたグローバルプラットフォームとしての基幹システム(ERP)の構築が行われている。プロジェクトマネジメントを生業とする弊社が10年後のあるべき姿を目指して進めている一つのITプロジェクトを紹介する。

【講演者略歴】スタンフォード大学石油工学科修士課程修了。イラン、カタール、インドネシア等のプロジェクトに従事。その間に統合プロジェクトエンジニアリングシステムの開発企画を担当。サハリン、カタールの大型LNGプロジェクトのITマネジャーを歴任。2007年以降、ICT全般を統括。

EG-4 ecoBCPによるスマートシティ創造
16:40 新たな価値創造と成長に向けて

清水建設株式会社 ecoBCP事業推進室
室長 那須原 和良

【セッション概要】
東日本大震災の貴重な経験を踏まえ、これからの社会に必要なものは「eco」環境配慮と企業の事業継続「BCP」、生活の維持「LCP」であり、我々の使命はecoBCPによるレジリエントなまちづくりと考えている。本講演ではecoBCPによるスマートシティ創造に向けた重要要素である電気・熱・情報のネットワーク技術、実証例、現在取組中の実施例をいくつか紹介する。また、スマートシティによる新たな価値の創造や成長に向けた今後の課題について述べる。

【講演者略歴】1981年清水建設入社。2007年設計本部副本部長、2010年設備本部副本部長、昨年4月ecoBCP推進室新設と共に室長就任。これからの社会に必要なものは、「eco」環境配慮と事業継続「BCP」、生活の維持「LCP」との信念からecoBCPによるレジリエントなまちづくりを推進中。

1日目(11月21日) セッション概要 - II

MS-1 国際有人宇宙プロジェクトの技術の伝承

13:10 国際宇宙ステーション「きぼう」での取り組み

宇宙航空研究開発機構 理事 長谷川 義幸
宇宙航空研究開発機構 技術領域リーダー 伊藤 剛 

【セッション概要】

日本は、宇宙先進5極が開発した国際宇宙ステーションに、独自の設計で開発した実験棟「きぼう」で参加しており、その巨大な宇宙システムの運用の一端を担っている。
高度で複雑な「きぼう」システムの運用には、設計思想やノウハウを熟知したシステム技術者が必要であるが、世代交代やコスト制約があり体制の維持は容易ではない。
実機が遠く離れた宇宙にある困難な条件下で、次世代への技術伝承を進めている「きぼう」プロジェクトでの取り組みを紹介する。

【講演者略歴】長谷川 義幸:昭和51年宇宙開発事業団入社。平成7年より国際宇宙ステーション(ISS)開発に参加。平成23年8月より現職。
伊藤 剛:平成9年同入社。実験棟「きぼう」のシステム開発、軌道上組立・起動の全体とりまとめ、ISS計画の多極間国際調整に従事。

MS-2 統制型マネジメントの終焉

14:15 もう一度ジャパニズNO.1を取り戻すために

株式会社インテカー
代表取締役社長 齋藤 ウィリアム 浩幸

【セッション概要】

上司の号令のもとでの一糸乱れぬ行動は、グループワークであってチームワークではない。従来の仕組みの中で対応してきた人物が1人で頭を捻っても新概念を生み出すことは難しい。新価値創造のためには、今まで積極参加していない人の意見が必要である。メンバー1人1人の個の力を発揮させられるチームワークとは何か。
リスクをマネジメントしながらチャレンジイノベーションを起こす仕組み作りについて、現場の具体的な悩みを伺いつつディスカッションを通じて一緒に解決する。

【講演者略歴】UCLA医学部卒。高校時代にソフトウェア会社設立。指紋認証暗号システムの開発で成功した後マイクロソフト社に売却。2005年拠点を日本に移してインテカーを設立。2011年世界経済フォーラム「ヤンググローバルリーダー」に選出。国会事故調最高技術責任者。国家戦略会議委員。

MS-3 行動観察とは？

15:35 「事実」基点の潜在ニーズ・リスク・スキルの抽出法

株式会社エルネット 代表常務取締役
インタラクティブ・マーケティング事業部長 磯 龍介

【セッション概要】

行動観察とは、アンケートやインタビューでは引き出せなかった、無意識下のニーズやリスク、暗黙知にアプローチできる手法として、近年、商品・サービスの開発や企画に活用されている手法である。次のような内容で、行動観察が人間工学や認知心理学、エスノグラフィーなどの科学的知見を取り入れた、新しい価値を作り出す手法であることを紹介する。
・なぜ行動観察なのか 行動観察の特徴とビジネスにおける有効性
・行動観察の活用シーン 観察・分析の視点
・事例のご紹介

【講演者略歴】1983年:大阪ガス株式会社入社、2001年:株式会社エルネット企画管理部長、2007年:同社インタラクティブ・マーケティング事業部長
2005年の行動観察のビジネス展開の初期から携わる
2009年～「行動観察力育成講座 入門編」講師



FI-1 小売業におけるライフログ活用

13:10 人と“コト”“モノ”との出会いを解き明かす

富士通株式会社 経営戦略室新規ビジネス開発室
シニアディレクター 大久保 龍一

【セッション概要】

消費行動の多様化が進む中、消費者が残すデジタル足跡も量、スピード、複雑性ともに増加の一途である。小売業では、この手元の情報を読み解きビジネス変革に繋げれるかは、重要な経営課題である。
本取り組みは、直感や仮説の客観化のための試行錯誤の場として情報可視化基盤クラウドサービスとワークショップによる可視化最適化サービスを活用し、現場部門の方々と消費行動を読み解き営業施策に至ったものである。事例を中心にビッグデータ時代の情報活用の現状を紹介する。

【講演者略歴】1984年、富士通株式会社に入社。百貨店業向けの店舗から基幹系に至るソリューション開発と全国でのソリューションビジネス展開に従事。2011年より現職。小売業向けライフログ分析(顧客消費行動分析)サービスの新規ビジネス事業化を推進。

FI-2 オムニチャネル時代のセブン&アイネット戦略

14:15

株式会社セブンネットショッピング
システム本部 本部長 飯田 克也

【セッション概要】

コンビニ、スーパー、百貨店、専門店など、あらゆる流通の業態を擁するセブン&アイグループ。
全国16,800のリアル店舗や商品開発力など、小売として培ってきた資産をネットと融合することにより、新しい価値創造を目指しています。

【講演者略歴】日本アイ・ビー・エムに入社後、プロジェクトマネジメント等を担当。2010年より現職にて、セブン&アイグループのネット戦略に従事。

FI-3 流通BMSが流通企業を強くする

15:35 消費財流通業界の新たな業務改革の潮流

一般財団法人流通システム開発センター
流通システム標準普及推進協議会 事務局長 坂本 尚登

【セッション概要】

毎日の生活に欠かせない多種多様な商品を、安全に、スピーディに消費者に届ける消費財流通業界。その裏では、日々膨大な量の荷物と情報の処理が行われている。この処理に欠かせないのがEDIだが、長年使われてきたレガシー手順(JCA手順)からインターネット対応の新たな標準EDI「流通BMS」によって、業務の改革が静かに進行している。
本セミナーでは、流通BMSの特徴を解説するとともに、その導入で業務改革を果たした小売業や卸売業のさまざまな事例を紹介する。

【講演者略歴】1979年 財団法人流通システム開発センターに入所、2006年6月研究開発部長。この間、消費財流通業界のPOS、EDI、QR、生鮮EDI、SCM等に幅広く関わり、流通BMS策定事業でもプロジェクト全体のとりまとめを行う。2012年4月に流通BMS協議会事務局長に就任、現在に至る。



PS-1 模擬プロジェクトによるPM教育

13:10 産業技術大学院におけるPBL方式のPM教育事例

産業技術大学院大学 教授 酒森 潔
日本オラクル株式会社 ディレクター 石井 浩靖 

【セッション概要】

プロジェクトマネジメントの実践力(コンピテンシー)はどのように教育すればよいのであろうか。よく、実践力は現場で難しい状況に何度も直面することで身に着くものであると言われている。
しかし、教育の場での第1歩は、正しいプロジェクトマネジメントの方法を教え、正しい体験をさせることである。
短い期間で実践力を高めるには、プロジェクトの質に左右されるOJTではなく、限られた期間に多くの実践経験を体験できる模擬プロジェクト実践型のPBL学習が大変効果的である。

【講演者略歴】酒森 潔:日本アイビーエムでの30年間のプロジェクト経験をもとに、AIITの教授として標準的な体系に基づくPMの講義を担当。
石井 浩靖:日本アイビーエムから日本オラクルへ移り、SIビジネスの立ち上げを支援した。また、AIITの認定登録講師やPBL評価委員としても活躍中。

PS-2 オフショア開発マネジメント成功のカギ

14:15 ブリッジ・エンジニアから見た効果的なオフショア開発マネジメント

SoftDEL Systems Private Limited
Program Manager SUKUMAN THING TAMANG

【セッション概要】 ※講演は日本語で行います。

オフショア開発では、通じるコミュニケーションと多様性を活かすことが求められます。そこで、ブリッジ・エンジニアの経験からオフショア開発の成功率を高めるために必要な、下記プロジェクトマネジメントの留意点を解説する。
①外国人社員から見た、日本企業の素晴らしいところ・理解できないところ
②外国人社員から見た、日本企業に求める改善点と改善案
③今まで日本企業で行った、ITプロジェクト活動(事例)
④外国人社員が考える、多様性を活かすITプロジェクトチームのあり方

【講演者略歴】1999年ネパールトリブバン大学商学部卒業。2007-2013年 SRM Technologies Private Limited、カスタマー・リレーションシップ・マネジャーとして日本とインドの橋渡し役を行い、プロジェクト企画から開発、導入、運用に従事。2013年6月からSoftDELシステムズにてプログラム・マネジャーとして活躍。

PS-3 PM教育における「新7つの誤解」

15:35 教育の投資効果を阻む陥りやすい錯覚

株式会社ピーエム・コンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】

2003年にプロジェクト管理の「7つの誤解」を本シンポで発表し、10年が過ぎたが誤解が解けたとは言い難い。最近ではPM教育に関しても誤解が蔓延している。
①ヒューマンスキルを強化すればプロジェクトチームは機能する ②リスクを洗い出せば発生時に対応できる ③グローバル人材育成には英語教育を優先すべき ④PM知識を得れば現場で使える ⑤緊縮予算下では品質管理・技術研修を優先させる ⑥スーパーPMを養成すればプロジェクトは成功する ⑦優秀な受講者は有能な要員、など。

【講演者略歴】UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年株式会社PMコンセプト設立。近著に『問題プロジェクトの火消し術』『バンダー・マネジメントの極意』

PS-4 ワンランク上のPMをめざして

16:40 制約にとらわれず幅広く活躍できるPM人材

日本セルロース株式会社
技術顧問 向後 忠明

【セッション概要】

昨今、プロジェクトとして求められる対象は多様化、複雑化、広域化、そしてグローバル化している。
このような環境下でのPMに求められるものは、幅広い視野を持ち、異質な知の融合や新たな知の組み換えができ、そして求められる対象に柔軟に対応できるプロジェクトマネジメント能力です。
すなわち、制約から自らを解き放ち、社内に限らず、他の業界、そして海外におけるプロジェクト等、あらゆる業界で活躍できるPMには何が必要かを紹介する。

【講演者略歴】1968年千葉大(工)卒日揮株式会社入社、DE本部、国際事業本部で各種海外PJに参加。1988年NTTI移籍、各種PJでのPM、NTT海外投資事業会社での役員、NTTコムPMアドバイザー他PMAJ理事、IPA PMコミュニティー委員。著書:『ワンランク上のPMを目指して』他

1日目(11月21日) セッション概要 - III

VC-1 顧客価値創造の開発手法 13:10 エンタープライズアジャイル

株式会社アイネット
代表取締役 竹腰 重徳



【セッション概要】
グローバル競争が激化する中、企業は顧客価値創造のイノベーションが求められ、顧客価値創造の開発手法であるエンタープライズアジャイルの重要性は高まっている。
その実現のためには、エンタープライズアジャイルを単にプロセスと捉えるのではなく、経営の視点からエンタープライズアジャイルの価値をしっかりと理解し、大規模プロジェクト、分散開発、コンプライアンス、契約、スキルなどのエンタープライズアジャイル採用上の課題を考慮しつつ、まずはスタートアップすることがすすめられる。

【講演者略歴】大阪大学工学部卒。マツダ、日本IBMを経て、株式会社アイネット、PM、アジャイル、経営品質、業務知識、営業、リーダーシップの研修開発やコンサル。北大非常勤講師や板橋経営品質審査員歴。PMAJ、PMIJ、PM学会などに寄稿や講演。PMP®、PMI®-ACP。

VC-3 『学び』をデザインする 15:35 「ことばスタンプ」開発で目指した価値

株式会社ジイケイテック
インタラクティブシステム開発部 室長 大久保 理

【セッション概要】
国立民族学博物館にある「ことばスタンプ」は『学び』にこだわって創り上げたインタラクティブな展示物である。
利用者（主に子供）が意識することなく、ごく自然な対話的操作で「ことばスタンプ」から、ひらがなの音やことばの成り立ちを学ぶことを、主要な価値と考え開発に当たった。
この開発を通して、担当メンバーの専門性を越えた情報共有と創造力が発揮され、『対話的操作における学び』について多くの知見を得ることができた。

【講演者略歴】千葉工業大学工業デザイン学科卒。1992年ジイケイテックに入社後、グラフィックデザインを中心に活動し、現在は公共施設などにおけるインタラクティブシステムの企画・設計・制作に携わる。

VC-2 日立での震災復興への取り組み事例 14:15 地域の再生、産業の新たな創出に向けて

株式会社日立ソリューションズ東日本
地域復興貢献室 室長 庄司 貞雄

【セッション概要】
日立ソリューションズ東日本では、日立グループにおける地域企業として、震災直後に地域復興貢献室を設置し被災地の復旧支援と復興に向けた様々な貢献活動を継続してきた。IT企業として自社の得意技術を活かした貢献を旨とし、①被災からの復旧支援、②自治体などの復興計画策定・実施への貢献、③新技術開発による地域の再生と産業の新たな創出への寄与、を方針としている。
講演では、長期的な視野に立った本業との連動を重視した活動の事例と今後の展開を紹介する。

【講演者略歴】1987年に日立東北ソフトウェア（現日立ソリューションズ東日本）に入社。人工知能の技術開発や各種大規模システム開発プロジェクトを経験して、2003年から品質保証部長を務め、自社の開発プロセスの改善に取り組む。東日本大震災の直後より復興貢献業務に携わる。

VC-4 農業イノベーション無くして日本の未来はない！ 16:40 農業と他産業との連携が創る社会的価値は大きい

株式会社エムスクエア・ラボ
代表取締役 加藤 百合子

【セッション概要】
安倍政権が農業に注力していることもあり、他産業からも熱い視線が注がれ、生産現場でも6次産業化やTPP対策など、動きが活発になってきた。
農業は生産という点だけでも社会に必須な産業であるが、雇用や健康、教育など社会問題となっている観点からみても農業の活用は無視できない。
農業イノベーションがいかに社会にいい影響を与えるかご紹介し、事業創造のヒントになればと思う。

【講演者略歴】1998年東大農学部卒、英国クランフィールド大学修士号取得後、NASAのプロジェクト、キヤノン、産業用機械メーカー研究開発を経て、2009年エムスクエア・ラボを設立。2012年農業事業にて日本政策投資銀行第一回女性ビジネスプランコンテスト大賞受賞。

展示コーナー

出展企業名	出展概要
 プラネット株式会社 http://www.planetkk.net/	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介
 株式会社ウェブアイ http://www.webi.co.jp/	統合プロジェクトマネジメントシステム PREGARE・工程'sのデモと納入事例のご紹介
 プロジェクトマネジメント 情報研究所株式会社 http://www.pmdi.jp/	プロジェクトマネジメントに関する製品やコンテンツおよびサービスのご紹介
 千代田システム テクノロジーズ株式会社 http://www.cst.chiyoda.co.jp/	PRIMAVERAによるEPMシステム構築の実例・機能等のご紹介
 株式会社IPテクノサービス http://www.ip techno-s.com/	オンライン型プロジェクト実行管理ツール「Clarizen」(クラリゼン)のご紹介
 日揮情報システム株式会社 http://www.jsys.co.jp/	IT企業、エンジニアリング企業向けのプロジェクトマネジメントサービス事例のご紹介
 Global Project Design, LLC http://gpdesign.com/	プロジェクト・デザイン・サービス(プロジェクトのプランニング・フェーズのコンサルティングサービス)の説明およびTeamPortプロジェクト・デザイン・ツールのデモを実施
 株式会社 イー・ウーマン http://www.ewoman.jp/	時間が見えて、自分をマネジメントするのに最適な手帳『アクションプランナー』2014年版 59色のご紹介
 パナソニック ソリューション テクノロジー 株式会社 http://panasonic.co.jp/avc/pstc/index.html	eラーニングと集合教育による、効果的なPM人材育成教育(PM入門、PMC、PMSプログラム等)をご紹介
 アセンテック株式会社 http://www.ascentech.co.jp/	PMソフトをセキュアにより容易に使うための、世界シェア73%のリモートPCクラウドサービス「CitrixGoToMyPC」をご紹介

参加者交流の場

このコーナーでは、参加者に「共有」の場を提供することにより、新しい考えや気づきを生み出すきっかけを作ることを目指しています。どうぞ積極的にご参加ください。

参加方法は、4つあります。

その1 コメントを書いた付箋紙を貼る

テーマごとに模造紙を貼り付けたボードを用意しています。付箋紙にご自身の意見や感想を自由に書いて貼り付けてください。他の人が貼り付けている意見に対する感想も歓迎です。

その2 Twitterでつぶやく (ハッシュタグ #pm_cafe)

付箋紙の代わりにつぶやいても構いません。スタッフが良いと思った意見は付箋紙に書いて貼りつけます。また、反対に付箋紙に書かれた内容をつぶやいても良いでしょう。

その3 話し合う

模造紙の前でテーマに関しての会話を行います。立ったままで気軽に参加してください。

その4 眺める、聴く

意見を書いたり、対話するのが苦手という方はボードに貼ってある意見を眺めたり、ボードの前で行われている対話を聴くだけでも構いません。



ドリンクコーナー



2日目(11月22日午前10:00～)セッション概要-1

A-1 「総論賛成各論反対」を制すP2Mの技 成長を続けるためのシナリオ作り

イースタスク株式会社 渡部 寿春
水ing株式会社 内田 淳二
デリア食品株式会社 藤澤 正則

 ワークショップ

【セミナーの狙い】

20世紀は油で戦争をした時代、21世紀は水で争う時代になるかも知れない。今回セミナーでは、少子化する社会構造変化や老朽化した施設の再整備などへの対応で、大きな変革を迫られている日本各地の代表的水道事業体の再生への試みを事例に取り上げる。多様なステークホルダーの合意形成が欠かせない複雑系プロジェクトでの目標設定と行動計画の策定プロセスの実際を模擬体験してもらうと同時に、生命の水に関わるホットな話題で知見を広めていただきたい。

【セミナーコンテンツ】

- ・複雑系プロジェクトの価値創出におけるリーダーシップ
- ・長期で考え短期で対応し変革につなげるシナリオづくり
- ・知識と行動から生まれる人間力

【受講をお勧めする方】

- ・PM実践力を高めたい方、P2Mの応用に関心のある方
- ・各種PM“知識”を“行動”で試してみたい方

【講師略歴】渡部 寿春:金融機関の海外市場系プロジェクトを推進。MBA(英国アバテイ大学)、PMR、PMシンポジウム企画、ITC。／内田 淳二:エンジニアリング専業にてPM経験を積む。現在、株式会社水ingの内部統制部門にて輸出管理全般を担当。PMR。／藤澤 正則:キユーピー株式会社入社。生産、設備・工場計画業務を経験後、CVSの組合へ出向し、しくみづくりに関わる。現在、サラダ惣菜事業のしくみづくりに関わっている。PMR。

A-3 勝てる組織の作り方ISOからAgileまで PMのISO化元年今考えようPMのコンピテンス!

日本電気株式会社 SI・ITサービス技術本部
エクゼクティブ・エキスパート 田島 彰二

【セミナーの狙い】

PMが昨年ISO21500として初めて標準の世界で認知された。このタイミングで勝てる組織を作るために参考となるISOに限らず各種標準、ベストプラクティスを鳥瞰して、そのための個人のキャリアパスの作り方、さらに勝てる組織を作った後に戦略のデザインまでをご説明する。

【セミナーコンテンツ】

- 1) ISO21500の概要、その他のPMのISO化の概要
- 2) キャリアパスの考え方
- 3) PM組織の評価(PMI® OPM3、The Open Group TOGAF、OGC/CO P3M3等)
- 4) ポートフォリオ、プログラム標準の最新の動向
- 5) 戦略デザインの考え方

【受講をお勧めする方】

PMの組織を束ねている方、PMOの責任者の方、上級PMの方、職種転換でPM関係(PMO組織)等へ配置換えになった責任者クラスの方、将来を考えたいPMの方、これからPMになって将来設計を考えている方

【講師略歴】IT系企業で、プロジェクトを35年以上経験、プロジェクトマネジャー、プログラムマネジャー、ポートフォリオマネジャー、GMを経験。新規事業・プロジェクトを担当。IBMとの連携プロジェクトでCTOイノベーション賞を2010年に受賞。PMのISO化作業を最初期から参画し、現在はその上位のポートフォリオ標準等のISO委員。PMP®, ITコーディネータ、ITIL、IPMA、PMI®, PM学会、itSMF会員

A-2 圧倒的成果と良好な人間関係のつくり方 ストレス軽減!主体的に人を動かすマネジメント

インスパイア型リーダー育成トレーナー 
元青森放送アナウンサー 選択理論心理士 後藤 清安

【セミナーの狙い】

組織パフォーマンスは個人のスキルと組織効率の積。つまり意思疎通がうまく回れないと心的ストレスが増すだけでなく業績向上も望めない。コミュニケーションがうまくいかない要因は「相手の状況が理解できないこと」。どうしたらお互いを理解し共に成果に向かうことができるのか?違いを理解しながら、同じゴールに向かって主体的に動ける自立型人材のチームを創るためのリードマネジメントシステムという新たな考え方を紹介する。

【セミナーコンテンツ】

- * パーソナルタイプを知る
- * 行動のメカニズムを知る
- * リードマネジメント5つの柱
- * 成果を阻む外的コントロールのマトリクス

【受講をお勧めする方】

職場環境を活気あるものにしたい方、主体性のある人材を育成したい方、いろいろな手法を学んでも職場に適用できていない方、ヒューマンスキルを磨きたい方

【講師略歴】1995年青森放送入社。独立後はインタビューのプロとしてフジテレビスーパーニュース、日経CNBCのリポート、日本経済新聞社主催シンポジウム・政府系式典司会など多数担当。現在は、リーダー育成をベースとした地域活性化プロジェクトを主宰。コミュニケーション、プレゼン、チームビルディングの研修・コンサルティングなどを通じて周囲を巻き込めるインスパイア型リーダーの育成を手掛けている。

A-4 海外インフラPJに必要なリスク管理 新興国での事業リスクを最小化するプロセスと手法

マーシュローカー・ジャパン株式会社
マネージングディレクター 木埜山 浩
クライアントエグゼクティブ 大野 紳吾



【セミナーの狙い】

海外プロジェクトで直面するリスクを効果的に管理するためにはどうすれば良いか? また、どのような対策を講じるべきか? リスクマネジメントのプロセスとリスク軽減の手法について解説し、新興国のインフラプロジェクトを想定した演習を通して、プロジェクトを成功に導くヒントを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

1. リスクの基本概念
2. リスクマネジメントのプロセスとリスク軽減の手法
3. グループ演習

【受講をお勧めする方】

海外インフラプロジェクトの実務に携わっている方、または興味がある方

【講師略歴】木埜山 浩:シカゴ大学MBA修了。ジャパンインフラ／エナジープラクティス統括。発電所(含原子力)、空港、鉄道、高速道路、プラント、クロスボーダーM&A等のリスクマネジメントの経験多数。／大野 紳吾:京都大学工学部卒業。IE Business School MBA修了。日系ゼネコン及び米系エンジニア会社でのPM経験を生かし、国内外の建設プロジェクト案件のリスクアドバイザー業務に従事。一級建築士。シックスシグマグリーンベルト。PMAJ会員。

A-5 仕事を通じて若手を育てる実践的テクニック プロジェクトマネジャーとして現場でいかに若手を育てるか

グローバルナレッジ ネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント／産業カウンセラー 田中 淳子



【セミナーの狙い】

人の成長は、7割が自分自身の直接体験から醸成されると言われています。プロジェクトにおいて、プロジェクトマネジャーはプロジェクトメンバーとともに、プロジェクトの目標に向かって仕事を進めるだけではなく、メンバーの育成も考える必要があります。メンバーを成長させることで、よりよい成果が上がるからです。このセミナーでは、プロジェクトマネジャーが現場で実践できる「若手育成」のちょっとしたコツを体験的に学習します。演習あり。

【セミナーコンテンツ】

- 若手が育ちづらい現代の事情
- 若手との関係構築
- 教えることと考えさせること
- 振り返りの支援
- プロジェクトマネジャー自身も成長し続けること

【受講をお勧めする方】

- プロジェクトメンバーの成長を真剣に考えているプロジェクトマネジャーやリーダー
- 『ITマネジャーのための現場で実践!若手を育てる47のテクニック』に沿った内容です。

【講師略歴】1986年日本ディジタルイクイップメント入社、IT技術教育に従事。96年より現職。ヒューマンスキル分野の人材育成に専念。2003年からは各社の「OJT制度支援」に力を注ぐ。著書『速効!SEのためのコミュニケーション実践塾』『速効!SEのための部下と後輩を育てる20のテクニック』『ITマネジャーのための現場で実践!若手を育てる47のテクニック』『はじめての後輩指導』、ブログ「田中淳子の“大人の学び”支援隊!」Facebook: TanakaJunko

A-7 システム開発とコミュニケーション 伝わるコミュニケーションの方法

株式会社イマテック
顧問 板倉 稔

 ワークショップ

【セミナーの狙い】

システム開発では、様々なコミュニケーションがなされるが、しばしば期待通りに通じない。この問題にどうすべきかを知り、かつできるようになることを狙いとする。コンピュータ・システム開発は、人の頭の中にあるアイデアやルールをコンピュータが実行できる様にするのである。これ自体が実世界の意図をコンピュータ世界に写すコミュニケーションである。その他で行われるコミュニケーションの事例を含めどうすれば伝わるかを習得する。

【セミナーコンテンツ】

- 講義
1. システム開発とコミュニケーション
 2. コミュニケーション・プロトコル
 3. 分かる(伝わる)とは
 4. 伝わるドキュメント
 5. ドキュメント以外の伝わるコミュニケーションの知見
- 演習 文章修正

【受講をお勧めする方】

コンピュータ・システム開発でコミュニケーションを改善したい方

【講師略歴】1967年富士通入社、システム本部第二システム開発部長、システム開発技術部長。1999年NTTコムウェア顧客料金系事業部副事業部長。2001年ゼン情報システムズ 常務取締役。2004年現職。中規模から一万人月超のシステム開発プロジェクトで設計からプロジェクト管理、開発標準、モデリングなどの開発。 著書『スーパーSE』、『知のモデリング』など 論文『ICSE』など多数、日本品質管理学会会員。

A-6 アラ還プログラム 実行中 パーソナルプロジェクトから学んだこと

ブラネット株式会社
シニアコンサルタント 中 憲治

【セミナーの狙い】

誰も人生で達成したい夢がある。夢を実現するためにはどうすればよいのか、現在遂行中である「アラ還プログラム」での経験を基に「立ち上げ」「計画」「実行」「コントロール」「終結」の各プロセスにおいて、遭遇する問題と対処、陥りやすい錯誤など、どちらかといえば失敗経験から学んだことを中心に、パーソナルプロジェクトの面白さを伝えていく。

【セミナーコンテンツ】

- ・「アラ還プログラム」とは
- ・夢を実現するためには
- ・問題解決プロセスに横たわる雲
- ・パーソナルプロジェクトからの教訓

【受講をお勧めする方】

夢を実現したいすべての人。
夢を実現するためのパーソナルプロジェクトは、立ち上げるに早すぎることはない。
若い人にもパーソナルプロジェクトに、今から取り組んでほしい。

【講師略歴】日産自動車と日本テレコム(現ソフトバンクテレコム)で30年間勤務、2003年よりブラネットにおいてプロジェクトマネジメントのインストラクターに従事。PMP®。リクルートマネジメントソリューションズ「シンキングマネジメント」トレーナー
著書『通勤大学図解PMコース プロジェクトマネジメント実践編』

A-8 ICTで活かすなぜなぜ5回(階) 実践的質問とアジャイル開発のTPSとの考察

株式会社富士通アドバンストエンジニアリング
SIサポート本部 シニアプロフェッショナル 小原 由紀夫



【セミナーの狙い】

PMAJのIT-SIG内のTPSに学ぶPM-WGでは、工場で生まれたTPS(トヨタ生産方式)を研究してきた。「なぜなぜ5回」をICTに取り込むために3つのフェーズ(①問題識別、②なぜなぜ5階層、3真因の検証)を体系化した。ICT現場での実践的質問を紹介する。一方、アメリカではTPSをリーンとしてアジャイル開発に取り込み、発展している。アジャイル開発のTPSとなぜなぜ5回の考え方と比較し、ICTでのなぜなぜ5回(階)の活用を提言する。

【セミナーコンテンツ】

1. なぜなぜ5回の課題
2. ICTでの実践を高める質問
3. アジャイル開発の中のTPS
4. アジャイル開発となぜなぜ5回
5. ICTでのなぜなぜ5回(階)の活用

【受講をお勧めする方】

ICT現場のPMとメンバー、アジャイル実践者、ICT企業の上司・経営者

【講師略歴】1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネジャーとして参画した。グローバルPMメソドロジーとTPSのセミナーと実践支援をしている。 PMP®。PMAJ会員。PMI®会員。米国ケイデンスマネジメント社(2009 PMI® Provider of the year)認定講師。PMAJ-IT-SIG TPSIC学びPM-WG主査。

2日目(11月22日午前10:00～)セッション概要-Ⅱ

A-9 マネジメントのためのフューチャーセッション 未来思考の対話による共創型の組織へ

株式会社フューチャーセッションズ
マネジャー 寛 大日朗

ワークショップ

【セミナーの狙い】

創造的な対話を通して、未来に向けての「新たな関係性」と「新たなアイデア」を生み出し、ステークホルダー同士が協力して行動できる状況を生み出すための場「フューチャーセッション」を体感すること。そして、未来を共創しながらプロジェクトを推進していく能力を高めること。

【セミナーコンテンツ】

フューチャーセッションの理論的背景、およびフューチャーセッション体験

【受講をお勧めする方】

プロジェクトリーダー、マネジャー、事務局などを担う方々

【講師略歴】富士ゼロックス株式会社入社後、ソフトウェア開発を経て、知識経営リサーチ・コンサルタント職へ。知識経営視点でのワークスタイル／ワークプレイスデザイン、デザイン思考による新サービス開発、未来シナリオを基点とした事業革新といった、創造的な組織への変革活動の推進と支援を手掛ける。2012年10月より株式会社フューチャーセッションズに参画。未来最適社会づくりを目指し活動中。

A-11 小さなチームで大きな成果を出す働き方 社員もお客様も幸せになる思考と行動のヒント

株式会社ソニックガーデン
代表取締役社長 倉貫 義人

【セミナーの狙い】

これからの時代に求められるのは、大きな組織で沢山の人数をいかにマネジメントするか、という観点ではなく、少ない人数の小さなチームでいかに成果を出すか、という観点ではないだろうか。沢山のものを作り大きな売上をあけて多くの社員を雇うこと、という価値観ではなく、小さくても働くこと、そのものに幸せを感じられるような会社や働きかた、価値観があるということを知ってもらうことが狙いである。

【セミナーコンテンツ】

少ない人数でも大きな成果を出すためには、スピードを上げることと、そのために無駄をなくすことがポイントになる。そして、速いスピードを維持するために高い「保守性」を維持しなければいけない。本セミナーでは、私たちが現場で実践している内容を事例として紹介する。

【受講をお勧めする方】

組織やグループのリーダー、幹部
起業を考えたい、もしくは検討中の方

【講師略歴】1974年京都生まれ。1999年立命館大学大学院を卒業し、TIS(旧東洋情報システム)に入社。2005年に社内SNS「SKIP」の開発と社内展開、その後オープンソース化を行う。2009年に社内ベンチャー「SonicGarden」を立ち上げる。2011年にTIS株式会社からのMBOを行い、株式会社ソニックガーデンの創業を行う。モットーは「心はプログラマ、仕事は経営者」。
ブログ：http://kuranuki.sonicgarden.jp/

A-10 企業を変える独創的発想法 イノベーションの起こし方

株式会社ピーエム・アライメント
取締役 中谷 英雄

ワークショップ

【セミナーの狙い】

今、企業を取り巻くビジネス環境変化はスピードを増しており、企業は収益ある成長事業の構築に必要な画期的なビジネス・イノベーションが求められている。

本講座では、マーケティングや製品開発、及びサービス企画(含むIT企画)におけるデザイン思考とエスノグラフィーを活用した独創的発想と、それを実現させ、成功させるビジネス・イノベーションのプロセスと重要スキルを実践で習得。

【セミナーコンテンツ】

1. 人間中心のイノベーション
2. イノベーション思考とエスノグラフィー、デザイン思考
3. 観察やインタビューからインサイト(心の動き)を引き出す方法
4. エスノグラフィーとデザイン思考の心得
5. エスノグラフィーとデザイン思考の実践ワーク

【受講をお勧めする方】

イノベーションの価値創出に興味のある方

【講師略歴】大手ITベンダー、信託銀行のシステム部門を経てIT戦略、システム企画、システム開発、プロジェクトマネジメントに従事。その後、現在の会社で、大手金融機関、サービス業を対象に、マネジメントコンサル、イノベーション立ち上げコンサル及び研修講師(年間 約50コース開催)を務める。ビジネスモデル学会会員、JUAS会員、PMAJ会員、PMI®日本支部会員、ITSMF会員。



2日目(11月22日午後13:45～)セッション概要-Ⅰ

B-1 PMBOK®ガイド 第5版概要解説 PMBOK®ガイド 第5版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説

日本電信電話株式会社
NTTソフトウェアイノベーションセンタ／研究主任 笠原 直樹

PMP

【セミナーの狙い】

PMBOK®ガイド は2013年1月に第5版が出版された。2013年4月末時点で、全世界でPMP®資格取得者は53万人を超え、PMBOK®ガイド の出版数も400万部を超えている。プロジェクトマネジメントの知識体系、フレームワークとして事実上のグローバルスタンダードとなっている。

本セミナーでは、PMBOK®ガイド 第5版について、第4版からの変更点、ならびに第5版の全体像について解説する。

【セミナーコンテンツ】

PMBOK®ガイド 第5版のフレームワーク、10個の知識エリア、5つのプロセス群、47のプロセスの概要と位置付けを解説する。

【受講をお勧めする方】

PMBOK®ガイド の内容や最新動向を知りたい方、PMP®資格取得を目指す方

プロジェクト・マネジャーやプロジェクト・リーダーの方

【講師略歴】日本電信電話株式会社入社後、NTT研究所にて、主にNTTの実サービス向けの新技術導入に関する研究開発に取り組む。その後、NTTグループの事業会社、開発会社でのプロジェクトマネジャー経験を経て、現在、NTT研究所における開発標準化活動、リスクアセスメント、PMO活動に従事。PMAJ® PMBOK®研修部会 副部会長。PMI®認定PMP®。情報処理技術者試験 プロジェクトマネージャ。

B-3 今こそ、プロジェクト思考で組織変革を 「P思考」欠如が価値連鎖を断ち切る、徹底検証を!

EPMイノベーション 代表 新藤 一豊
株式会社 富士テクノソリューション 取締役 浜本 知一

【セミナーの狙い】

事業・プロジェクトが上手く行かないのは、「プロジェクト思考／行動」を習慣化していないため。いくら知見・経験が豊かでも、「プロジェクト思考」が欠如していると、事業・プロジェクト展開が失敗する確率は高まり、負の連鎖となる。「プロジェクト思考」の定石と勘所を再認識し、実践で生かし習慣化するコツを掴み、“プロジェクトの達人”として、好循環の価値連鎖確立に貢献するきっかけにする。

【セミナーコンテンツ】

以下を活用してワークショップ的に学習

- ・「プロジェクト人間」判定シート
- ・失敗原因のトレースやリスク認識のシート
- ・“プロジェクト組立て能力を磨く”10箇条
- ・知識ベースとプロジェクト思考実践の対比シート
- ・「プロジェクト思考」理解のため図表

【受講をお勧めする方】

プロジェクトをより上手く進めたい方

プロジェクト事業を改善・改革したい方

【講師略歴】新藤 一豊：日揮株式会社で、プラントの設計・建設経験と共に、多くの設計支援・プロジェクト支援のシステムづくりで貢献。日揮情報システム株式会社SI事業でコンサルタント、PM、事業責任者で活躍。
浜本 知一：日揮株式会社の経営企画、研究開発、EPC事業改革などで活躍。日揮情報システム株式会社で市場・事業開拓責任者、経営として事業拡大・充実に貢献。「プロジェクト思考で組織変革を!」で社会貢献すべく活動中。

B-2 プロジェクトマネジャーのための「交流分析」入門 ステークホルダーとのよりよい関係を築くためのセルフコントロール法

アイシンク株式会社
ヒューマンスキル講師 丸山 奈緒子

ワークショップ

【セミナーの狙い】

「交流分析」とはいわば「人づき合いの心理学」である。心理学の専門領域ながら、一般の人にも大変わかりやすく、日々のコミュニケーションに役立つ視点を与えてくれる。

プロマネの毎日は、顧客・上司・メンバーなどとの対人場面の嵐で、ときには感情的になったり、衝突が起こることも少なくない。交流分析を知っておくと、これら対人場面での衝突の理由や、その改善方法がわかる。

本セミナーは、忙しいプロマネの皆さんが少し立ち止まり、コミュニケーションのあり方を見直す機会としたい。

【セミナーコンテンツ】

- ・ついやってしまった失敗、そのココロは?
- ・自分の「生きグセ」はどんなもの?・・・エゴグラムで自己分析
- ・不快なやりとりから気持ちの良いやりとりへの切り替え法

【受講をお勧めする方】

・自分のコミュニケーションを改善する視点を手にしたい方

【講師略歴】桜美林大学大学院心理学研究科健康心理学卒。専門健康心理士。アイシンク株式会社にて心理学をベースにしたヒューマンスキル系講座を開発、講師として活躍している。開発した講座はストレスマネジメント、アサーション、コーチング、交流分析などで、心理学の理論的背景を持ちながらも、プロジェクトの現場で役立つ実践的なスキルを備えた講座となっており、いずれも顧客から高い評価を得ている。

B-4 「集めるマーケティング」から「集まるマーケティング」へ 「集まる顧客」が本当の「お客様」

株式会社ハンブティ
代表取締役 宮田 貞夫

ワークショップ

【セミナーの狙い】

消費者の物に対する欲求が大きく低下している近年のビジネス環境において、従来の考え方を180度変えて「良質の客」を開拓している手法を、事例を交えて紹介する。

【セミナーコンテンツ】

近年のBtoC型(小売業、飲食業、宿泊業など)のビジネスは、「ディスカウント販売」、「ネット販売」、「ポスティング」、「DM」など従来の販促策ではなかなか集客できない。更に、無理な販促をして「集めた客」は、「価格に厳しい」「クレームが多い」「リピートしない」など企業側が求めている客とは言えない。

このセミナーでは顧客を「集める」のではなく、顧客から「集まる」マーケティングの手法について、事例を紹介しながら解説する。

【受講をお勧めする方】

従来のマーケティング手法の効果に疑問を感じている人

BtoC型ビジネスの経営改善を考えている人

【講師略歴】大手証券会社で財務部と海外駐在(英国現法の共同財務部長など)を中心に約20年間勤務後、1999年に独立。
株式会社ハンブティの代表取締役として経営とITのコンサルティングを行っているほか、中央大学商学部兼任講師(非常勤講師)、上場予定企業の社外取締役・監査役等に就任している。
中小企業診断士、ITコーディネータ、ターンアラウンド(事業再生)マネジャー。

2日目（11月22日午後13:45～）セッション概要-Ⅱ

B-5 信頼に基づくリーダーシップ どんなに正しいことを言っても人は動かない

株式会社小倉広事務所
代表取締役 小倉 広

ワークショップ

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジメントにおいては多くの人を動いてもらう必要がある。クライアント、メンバー、外部パートナーなど。私たちは人を動かす際に、ついつい理屈で説明をしてしまいがちだ。しかし、どんなに理が通っていることを伝えても人は動かない。なぜならば人は信頼で動くからだ。

本セミナーでは、人を動かすリーダーシップの源泉が信頼であることを実感し、いかにして信頼を築き上げるかを学びます。

【セミナーコンテンツ】

- ・EPホランダーが提唱した信頼蓄積理論に基づくリーダーシップとは？
- ・リーダーシップとマネジメントの違いとは？
- ・信頼を築く3つの法則とは？
- ・プロジェクトメンバーとの信頼度診断テスト ほか

【受講をお勧めする方】

プロジェクトメンバー、クライアント、外部パートナーなどに動いてもらう必要のあるPMほかすべての方へ

【講師略歴】大学卒業後、リクルート課長、ソースネクスト常務取締役などを経て現職。大企業の中間管理職、公開前後のベンチャー企業役員、中小企業の創業オーナー社長と、あらゆる立場で組織を牽引。しかし、リーダーシップ不足からチームを束ねることに失敗し二度のうつ病に。一連の経験を通じて「リーダーシップとは生き様そのものである」との考えに至る。著書「任せる技術」（日本経済新聞出版社）など約30冊。

B-7 経済成長の行方を握る女性活用とは 成長戦略に影響を与える女性活用事例を探る

TIS株式会社 執行役員 小野田 祐子
株式会社日立ソリューションズ 労政担当部長 久永 美砂
ロイヤルブルーティージャパン株式会社 代表取締役 吉本 桂子
株式会社エイチアイ・シス 代表取締役 石川 博子

ワークショップ

SIG

【セミナーの狙い】

2013年、アベノミクスで経済成長が期待されており、その中で、労働力供給構造が激変する10年後を見据え、IT業界で実践されている女性活用事例で、いかに企業の成長戦略に貢献していけるのか、現場の生の体験などで理解を深める。また、実際に意思決定している女性起業家から、結果の出し方などを探る。洞爺湖サミットやAPECなどで献上される超高級茶やJALのファーストクラス機内食で提供されるお茶をワインボトルで提供し、販売している。いかにこのような超高級茶が売れているのか。

【セミナーコンテンツ】

- ・TISの女性活躍を推進する事例報告
- ・日立ソリューションズの現場での体験報告
- ・ロイヤルブルーティージャパンのビジネスでの成功事例報告
- ・パネルディスカッション

【受講をお勧めする方】

- ・マネジャー、リーダー

【講師略歴】小野田 祐子：1980年に大学を卒業後、TIS（当時の東洋情報システム）に入社。開発部門や人事部を経て2005年に人事部長を経て、2008年には初の女性執行役員に就任。／久永 美砂：1986年4月、日立コンピュータコンサルタン株式会社（現 日立ソリューションズ）入社。システム事業部などを経て、ダイバーシティ推進センタ長・労政担当部長に至る。／吉本 桂子：2006年5月より現会長とロイヤルブルーティージャパンを創業。手摘みで水だしの超高級茶をワインボトルで提供。おもてなしとして「茶宴」をプロデュース。／石川 博子：ゲーム会社を経て1990年有限会社設立。1998年6月、システム開発の株式会社を設立し、現在に至る。

B-6 チームビルディングの罫：ポピュリズム 現場のコンフリクトはなぜ起り、どう解決するか

PS-WG 代表 松尾谷 徹
富士通株式会社 松田 浩一
東京工業大学 特認講師 森本 千佳子

SIG

【セミナーの狙い】

ITシステム開発の現場では、これまで、高度な技術の壁や大規模が故のコミュニケーションパスの多さから困難な状況が発生していた。近年、技術的な面では様々なツールやフレームワークの発達、大規模という面ではある程度の規模に分割するなどの工夫が見られるが、コスト低減やコンプライアンスの面から参加企業間のコンフリクトによる困難が増大している。

これらの問題は明示的に測定することが難しく、これをどのように把握し、解決していくかについて、現場の事例や、教育現場での事例を交えて解説する。

【セミナーコンテンツ】

PS研究会／IT-SIGの研究成果等

【受講をお勧めする方】

従来ある西欧的、規範的なプロジェクトマネジメント手法に不満を感じているプロジェクトマネジャー
人材育成や人間力に関心のある方

【講師略歴】PS研究会：2002年設立のプロジェクトにおけるメンバーシップ（パートナー満足）研究を行う任意団体。
松尾谷 徹：PS研究会代表 NECのPM出身 法政大兼任講師、有限会社デバッグ工学研究所代表。／松田 浩一：PS研究会 測定FST主査 富士通PM作業を担当し現在に至る。／森本 千佳子：PS研究会 TIS入社後、システム開発のSE、トラブルの火消し、PMOを経て現在に至る。

B-8 計画力で時代に勝つ 「実行」に効く計画の技術

エム・アイ・アール株式会社
ディレクター 浦 正樹

ワークショップ

【セミナーの狙い】

「実行できない計画」とは、日程や作業工程、予算などを列挙しただけで、実現性や必然性が明らかでない計画のことだ。隅から隅までメリハリなく計画する人がいるが、これを実行に移したところで、遠からず頓挫するに違いない。スポーツやものづくりに「技術」があるように、計画には「計画の技術」がある。計画の種類に関係なく、プロジェクト計画にも、事業計画にも共通に使える技術だ。今回は、実行に効く計画の立て方についてお話しする。

【セミナーコンテンツ】

- ・実行に効く計画とはどんな計画か
- ・計画の立て方とフレームワークの選び方…組立タイプと配分タイプ
- ・着目すべき3つの要因…前提・重点・新規要因
- ・目的と整合する目標の設定
- ・簡単な事例演習

【受講をお勧めする方】

- ・プロジェクト計画やさらに上位（プログラムやビジネス）の計画を担当される方

【講師略歴】横浜国立大学工学部卒。自動車メーカーでの設計、SEなどを経てコンサルタントに転身。外資系コンサルティングファームで勤務後、数年前までマイクロソフトに在籍。キャリアを通じて計画マネジメントの導入・実践に関わり、その過程で、日本の組織や現場と向き合ってきた。事業計画からプロジェクト計画まで、その作成と落とし込み、実践フェーズのマネジメントに関するサービスを提供している。

B-9 ITプロジェクト成功のための構想企画 しっかりしたビジョンと構想企画が命運を分ける

株式会社アイ・ティ・イノベーション
取締役 兼 専務執行役員 能登原 伸二

【セミナーの狙い】

ビジネスに役立つ情報システムを構築するための肝となる構想・企画フェーズは、プロジェクト成功のためにも重要なフェーズであることを理解してもらう。

【セミナーコンテンツ】

1. プロジェクト失敗の要因
2. IT構想・企画を取り巻く現状
3. IT構想・企画とは
4. 要求の取りまとめ（Why）フェーズ
5. 要求の整理方法
6. 業務・システムの概要定義（What）フェーズ
7. 実現シナリオの策定（How）フェーズ

【受講をお勧めする方】

ユーザ企業でITの構想・企画に携わる方
ベンダーで提案に携わる方
ITプロジェクトのPMや関係者

【講師略歴】名古屋工業大学情報工学科卒業（1983年3月）。石油会社の情報システム部門において、長年、情報システムの企画、開発、運用までの幅広い業務に携わった。現在は、ITプロジェクトにおけるPM及びPMOの運営支援、また、IT構想・企画などの超上流工程支援なども幅広く手がける。常に顧客と共に考え、行動し、成果を上げることをモットーとしている。名古屋工業大学 情報工学科非常勤講師、PMP®

B-11 変化に対応するアジャイル・プロジェクトマネジメント 従来手法との違い、成功するリーダーシップ像を探る

株式会社チェンジビジョン 平鍋 健児
株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ 神部 知明
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 柴山 洋徳
株式会社ビーエム・アライメント モデレーター 佐藤 義男

パネル

【セミナーの狙い】

今、企業を取り巻く環境変化はスピードを増しており、企業はこの変化に柔軟に対応する仕組みが求められている。本パネルディスカッションでは、アジャイル型開発とマネジメント事例を取り上げ、新しいリーダーシップ像を探る。さらに、日本への普及・定着のポイントを討論する。

【セミナーコンテンツ】

- 1.IT新市場におけるアジャイル開発事例紹介
- 2.従来型開発との違い
- 3.アジャイル型開発が日本に普及するためには
- 4.アジャイル型開発の教育支援のあり方
- 5.アジャイル・プロジェクトマネジメント

【受講をお勧めする方】

「アジャイル思考」による製品やサービス開発に関心のある方
PM資格取得者

【講師略歴】平鍋 健児：10年のアジャイル開発経験をもち、著書『アジャイル開発とスクラム』など多数。／神部 知明：IT新市場の開拓プロジェクトにて、アジャイル開発実践中。／柴山 洋徳：Scrumの全社的な組織導入、グローバルグループ会社への展開、人材育成およびScrum導入プロジェクトのコーチングを担当。／佐藤 義男：現在、企業向けにPMコンサルティング・サービス（PM教育、PMO業務支援、アセスメント支援）を提供。

B-10 デザイン思考によるイノベーション実践 21世紀型のマネジメント手法を体系的に学ぶ

一般社団法人デザイン思考研究所
所長／代表理事 柏野 尊徳

ワークショップ

【セミナーの狙い】

イノベーション・プロセスを推進させる上で有用なデザイン思考について、プロジェクト・マネジメントの観点から理解。スタンフォード大学の知見を踏まえた講演と、参加者同士でグループを組むワークショップ実践を用意。デザイン思考の理論と実践について、その概要をコンパクトな形で体験できる。

【セミナーコンテンツ】

- 1) デザイン思考に関する基礎知識について30分程度の講演
- 2) デザイン思考のプロセスをグループ形式で体感できる90分のワークショップ
- 3) デザイン思考マネジメントに関する意見交換、質疑応答

【受講をお勧めする方】

プロジェクト・メンバーが自主的に課題発見し、解決策の提案・実行を行うようマネジメントしたいマネジャー／イノベーション実践・新規事業創造の共通言語として、社内でデザイン思考を活用したい経営者、上級管理者／組織の創造性を高めたい人事担当者

【講師略歴】専門はイノベーション。スタンフォード大d.schoolでイノベーション手法：デザイン思考を学ぶ。同大発行『デザイン思考家が知っておくべき39のメソッド』監訳。岡山大学大学院で3年間教鞭を執り、慶應SFCを拠点にイノベーション教育の研究と実践に専念。デザイン思考のセミナー開催や企業向け教育プログラムの開発・研修を行う。慶應義塾大学SFCデザイン思考研究会／社団法人デザイン思考研究所 所長。

